

朝日新聞デジタル記事




## 米中間選挙2022

# バイデン民主党を救った女性票 支持率低迷・インフレ直撃でも善戦

有料記事 アメリカ中間選挙2022

ワシントン=榊原謙、高野遼、フィラデルフィア= 清宮涼 2022年11月9日 21時25分



7日、選挙集会で演説するバイデン米大統領=メリーランド州ブーイ、ランハム裕子撮影 



米国政治の行方を左右する中間選挙で、苦戦が予想されていたバイデン大統領の民主党が善戦をみせている。共和党の躍進による「赤い波」が起きるとの予測もあったが、上下両院で過半数をめぐる接戦が続いている。

当初は苦戦が予想されていた民主党は、大きく議席を減らす事態は食い止めた。

アフガニスタンからの米軍撤退が混乱を招いた昨夏以来、バイデン氏の支持率は低迷を続け、今年6月には30%台に落ち込んだ。40年ぶりの物価高（インフレ）は国民生活を直撃し、

有効な対策を打ち出せていないとして批判も浴び続けた。

悪い流れを変えたのは、6月下旬に連邦最高裁が出した、人工妊娠中絶の権利を認めない判決だった。中絶に反対する意見は共和党内に強く、9人の判事のうち、判決に賛成した5人は共和党の大統領に指名された。これに対し、中絶を「女性の権利」だとするバイデン政権は判決を強く批判。女性を中心に支持が広がるきっかけとなった。

以来、民主党は訴えの中心に中絶の問題を据えた。米紙ワシントン・ポストによると、11月までの2カ月間で民主党が広告で訴えたテーマのうち、中絶問題が群を抜いてトップで、1億ドル（約145億円）以上を費やしていた。

CNNの出口調査でも、中間選挙での中絶問題への関心の高さがうかがえる。中絶を「合法にすべきだ」とする人が全体の60%にのぼった。最も重要な問題としても、インフレ（31%）に次いで、中絶（27%）を挙げた人が多かった。

## 「MAGA共和党员」新トランプ派を批判

さらにバイデン政権は、選挙戦を通じて「民主主義の危機」を訴えた。

2年前の大統領選で トランプ氏が敗れて以来、共和党内では根柢なく「選挙に不正があった」として結果を認めない動きが広がった。今回の中間選挙でも、そうした考えを持つ候補者は多い。民主党は、こうした候補者を「選挙否定論者」と呼び、民主主義の根幹を揺るがす姿勢だと批判を強めた。

また、共和党内で穏健派に代わり、トランプ氏の考えに同調する勢力が主導権を握りつつあることにも強い警鐘を鳴らした。トランプ氏のスローガン「Make America Great Again（米国を再び偉大に）」の頭文字をとり、「MAGA共和党员」と呼んで親トランプ派を批判するのはバイデン氏の演説の定番だった。

中間選挙では、これまでも大統領の出身政党は苦戦してきた。オバマ政権1期目の中間選挙で、民主党は下院だけで63議席を失った。

今回、民主党が下院の過半数を失えば、自由に法案や予算を成立させることができず、残り2年あまりの政権運営は厳しくなる。だが支持率の低迷が深刻だったバイデン政権としては、傷口を小さく抑えられそうだ。（ワシントン=榊原謙、高野遼、フィラデルフィア= 清宮涼）